



「大川の駅」(仮称)について  
西田 学 議員

**問** 平成27年10月の経営会議で三丸公共用地は候補に入っていたか。

**答** 会議の議題が「道の駅構想に係るアクセス道路について」となっています。これは大野島インターチェンジ北側へのアクセス道路を意味するもので、三丸公共用地は議題に上がっていません。

その会議までの経緯は、平成27年9月、一般質問の答弁の中で、当時の鳩山市長が、「自分の意見として、道の駅は大野島で考えている。有明海沿岸道路の構造変更に伴う設計変更を国に要望したい。」と発言されました。その後、国から大野島インターチェンジ付近の設計がそろそろ終わるので、設計変更もそろそろタイムリミットとの情報が入りました。それを受けて、執行部の意思決定機関である経営会議の中で、大野島インターチェンジ北側に道の駅を造る

という方針と国に設計変更の要望をすることを満場一致で決定したというのが当時の流れです。

**問** 「大川の駅」整備推進協議会や検討部会は、「大川の駅」に民間事業用地が含まれ、合計8万平米もの規模になることを認めたのか。

**答** 「大川の駅」全体計画の素案を説明し、整備想定区域の敷地面積を8万6千平米と示しましたが、この規模について特段の指摘はなく、ご了解いただいているものと理解しています。

**問** 排水に毒性のあるアオコなどが発生することはないか。

**答** 仮にオープン式の調整池を設置する場合でも、調整池はあくまで降雨時の排水が既存の水路に過度に負担をかけないようにするので、平時には水はたまっておらず、アオコが発生することはないと考えています。



倉重市政について

平木 一朗 議員

**問** 市長就任からの成果、そして大川の将来の課題などを伺う。

**答** ふるさと大川に笑顔の花を咲かせたいと市政を担わせていただき、7年半が経過しました。市政運営では、スピード感とバランス感覚を意識し、基金残高も積み増すなど財政も健全化に向かっていきます。また、子育て支援総合施設の整備など、特徴的な施策によって、近隣自治体の中で存在感を出せていると感じています。

一方、少子高齢化と人口減少の進展、子どもから高齢者までの困りごとやニーズの多様化への対応という大きな課題もあります。大川市の今と未来のため、6年度の最重要施策であります「大川の駅」事業、大川リビルディング事業、子育て施策、重層的支援体制の整備を力強く推進していきます。

**問** 「無謀な「大川の駅」事業を

市民の力で止めてください」との反対署名活動がなされているが、本市の財政状況は。

**答** 4年度の決算は黒字の状態、実質公債費比率その他の指標も早期健全化基準を下回っています。「大川の駅」事業に当たりまして、現在の状況を踏まえ、試算等を行う中では市民サービスを低下させることなく、健全な財政運営ができると思込んでいます。

**問** 反対署名活動では、ふるさと基金の使い方に虚偽記載があり、真偽や発行者が不明な状態で出回っている。間違った情報が拡散しないようにしていただきたいが。

**答** 立場のある方が誤った情報の流布に関わっておられるとすると、市民の皆様も誤解されたり、誤った情報に基づいて判断されることにつながりますので、ぜひやめていただきたいと思っています。



大川市にとって古賀政男先生とは  
子ども医療費の助成を18歳までに

宮崎 稔子 議員

**問** 音楽家として初の国民栄誉賞を受賞された偉大な古賀政男先生は、本市にとってどのような存在か。

**答** 本市では、平成初期を中心に古賀メロディーを軸として、音楽活動の活発化を促すとともに、古賀メロディーのふるさと大川をPRしてきました。また、古賀メロディー関連のデザインを取り入れた町並みづくりを推進してきまし

た。現在、7月の命日祭、11月の生誕祭のほか、古賀政男音楽文化振興財団との共催により、3月に大川音楽祭を開催しています。今後もイベントを通して末永く顕彰し、偉大な作曲家の故郷であるという誇りを持って、文化の薫り高いまちづくりに努めていきます。

**問** 学校教育の中で、古賀政男先生をどのように継承しているのか。

**答** 市内全児童、生徒に配布して

いる「素読・音読・朗読集 唱」に先生作曲の歌詞を載せており、朝の活動の時間や給食の時間に大川市歌を歌ったり、聞いたりしています。また、市内の文化施設として、古賀政男記念館を社会見学のコースに取り入れることを推進していきます。

**問** 電飾看板のようにト音記号を浮かび上がらせるようなものを庁舎の外壁に設置できないか。

**答** 外壁改修を行ったばかりなので、今後留意していきたいと思いますが、普段の生活の中で、例えば防災無線やゴミ収集車など、古賀メロディーが聞けることを意識して顕彰したいと思います。

**問** 子ども医療費助成は、18歳までの検討の必要性を感じるが。

**答** 6年度の状況を見て、本市でも前向きに検討していくことになると思います。



「大川の駅」の計画について(第12弾)  
みのたけ(身の丈)を超えた投資が必要か!!

永島 幸夫 議員

**問** にぎわいがあり、稼ぐまちにしたいと言われているが、身の丈を超えた投資の必要があるのか、改めて市長の見解を伺う。

**答** 本市の財政状況につきまして、過去10年間の決算状況を振り返りますと、社会経済状況の影響を受けながらも一定の税収を確保することができており、昨日の一般質問でも答弁いたしましたように、統合中学校施設建設事業、三又小学校移転改修事業、子育て支援総合施設整備事業など、本市の将来を見据えた大型事業に取り組みなしながら、この間、国、県の支援をいただきながら円滑に財政運営を行ってきたところです。

また、統合中学校施設建設などの事業が一定完了した後は、次の大きな政策となります「大川の駅」事業に向けて、歳出削減のための既存事業の見直しや基金への

積立てをはじめ、地方債の借入れを必要最小限にとどめることにより、地方債残高の縮減、さらにはふるさと納税の推進を図るなど、市の財政健全化に向けた取組を進めたことにより、一定の成果が出ているものと考えています。

ご承知のとおり、「大川の駅」事業に当たりましては、設計、建設年度において多額の予算が必要となりますが、今後の市の財政負担がどのようなのか試算を行った中では、財政調整基金やふるさと基金などを活用することにより、市民サービスを低下させることなく、健全な財政運営ができると見込んでいます。

したがいまして、本市の財政が赤字になるとか財政破綻するようなことには決してならず、身の丈を超えた投資にはならないということを申し上げたいと思います。